



△ 入館料の変更等は予定していない。

[産業振興部]

。令和3年度 コロナ禍における観光誘客施策の主な取組みについて

〈 委員から次のような質疑があった。 〉

- 高岡市内に限らず県西部の観光スポットへの立ち寄りも助成対象に含まれることも踏まえ、県西部5市に対し本市団体旅行誘致促進事業の宣伝、周知を行っているのか。
- △ 本事業は、旅行商品を造成する旅行エージェントに対する助成なので、まずは、旅行エージェントを中心に周知、商品造成依頼を行っている。委員ご指摘のとおり、本事業の効果で県西部各地の観光スポットにも立ち寄りをしているので、県西部各市からも機会をとらえてPRしてもらえよう、今後お願いしてまいりたい。
- 県西部や飛越能など他の自治体との連携した誘客組織のなかで、市独自の観光施策のPRを行っているのか、また今年度の広域観光の取り組み予定は。
- △ 今年度の広域観光の取り組みとしては、富山県西部地区観光協議会では、有力雑誌と提携した県西部6市をPRする観光ガイドの作成などを計画している。また、飛越能経済観光都市懇談会では、インバウンド向けの観光ポータルサイトを構築しており、ポータルサイトの更なる充実を図っていく予定である。このほか、飛越能地域のロードマップの改定を予定している。加えて、山・鉾・屋台行事でユネスコ無形文化遺産登録を受けている飛越能エリア関係5市で構成する、ユネスコ五大祭連携PR部会という組織を設置しており、平成29年度から実施している曳山会館等を周遊できる共通券の販売を継続して行っていく予定である。この他の事業についても、コロナの収束を見込んで、仕込みをしているところである。
- 中京圏を含めた、東京、大阪の3大都市圏へのPRの現状について。
- △ 第3期観光振興ビジョンの中でも、3大都市圏などに向けてのPRを重要なものとして位置付けており、推進していくこととしている。まずは、旅行エージェントを通じて旅行商品造成の働きかけを行っていくことになるが、現状、プロモーション活動が制限されており、オンラインでの商談会などに積極的に参加しながら、高岡市内、また県西部地域にはこういう観光素材があり、こういう周遊ができるというテーマ性を持ったものをご案内しながら商品造成をお願いしているところである。

[教育委員会]

。ウィズコロナ時代における歴史・文化資産を活かしたまちづくりについて

〈 委員から次のような質疑等があった。 〉

- 吉久のまち歩きマップの制作の進捗状況は。
- △ マップの制作には、国の助成制度を活用することとしており、7月1日に国の補助

金の交付決定をいただいたところである。また、吉久のまちづくりが主体的な動きになるよう、地域の皆さんの意見をお聞きしながら一緒に進めたいと考えている。すでに、吉久まちづくり推進協議会の役員の皆さんと制作に向けた打ち合わせを行ったところであり、年内の完成を目指している。

- マップの制作部数の予定は。
- △ 多言語を含めた制作で、日本語、英語、中国語の簡体字、繁体字の4種類を予定している。日本語版は、1万部を予定しており、その他については、それぞれ3千部を予定している。
- ウィズコロナ時代の施策・事業を打ち出している前提として、まだコロナが社会的に蔓延しているという状況なのか、認識は。
- △ 現状を踏まえ、日本各地でワクチンの接種等は進んでいるが、感染拡大が収まりきっていない状況が当面続くということを想定してこのようなタイトルをつけた。
- 事業実施にあたっては、施設内やイベント会場などの感染対策が求められる。アフターコロナという言葉もあるが、本市では、現状を踏まえコロナを意識しながら進めていくということか。
- △ コロナ前と同じ取り組みをするにしても、日程・期間の設定やその取り組みに参加してもらう体制、募集人員などについて、工夫していく必要があると思っている。そのうえで、一定程度、今のコロナの感染状況が収束した段階で、適切に判断しながら進めてまいりたい。
- 年内作成の吉久のまち歩きマップの活用方法は。
- △ 吉久のまち歩きマップについては、地域の皆さんと地域のいろいろな情報、当然、吉久のまちの成り立ち、歴史的なものも含めて作成し、重伝建地区に選定された中で、訪れる方への案内の一助として考えている。また、地元では、吉久を案内できるよう観光ガイド的なものを養成していきたいという考えももっていることから、その際に活用できるマップにしていきたい。
- 吉久のまちの成立過程を歴史的にみると、米をどこから運んでいたのかという観点で、昔は庄川と小矢部川が合流し河口へ流れていたのが吉久と放生津が陸続きであったことを周辺の小学校の子供たちに伝えるなど、郷土の学習のためにも使っていただきたい。作成途中であればその点も加味してほしい。(要望)

## 2 その他

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

現在の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、今年度の本委員会の視察の中止を了承

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

歴史文化・観光対策特別委員会 当局説明員（10名）

副市長	河村 幹治		
市長政策部長	鶴谷 俊幸	教育長	近藤 智久
市長政策部次長 都市経営課長・広域連携推進室長	久郷 聡	教育次長 参事	杉森 芳昭
文化創造課長	寺井 知恵	文化財保護活用課長	大野 洋靖
産業振興部長	福田 直之		
産業振興部次長	柳原 隆		
観光交流課長	高嶋 史恵		

※R3年度委員会では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、入室を最小限に制限。